

PRESS RELEASE

2018年5月29日
一般社団法人カメラ映像機器工業会(CIPA)

「フォトイメージングマーケット統合調査」の結果について

一般社団法人カメラ映像機器工業会(CIPA:代表理事会長 牛田一雄)は、デジタルカメラとスマートフォンを使い分けられ方を主な視点とするユーザー調査「フォトイメージングマーケット統合調査」を株式会社BCN(取締役会長兼社長 奥田喜久男)への委託によって実施した。

スマートフォンが爆発的に普及する中であっても、デジタルカメラは、2017年年間出荷実績が増加に転じる、当工業会主催イベントCP+の来場者数が増加を続けるなどむしろ存在感を増す。

調査結果は、デジタルカメラと出会い、デジタルカメラをパートナーとして、趣味として、デジタルカメラでなければ撮れない写真の世界を楽しみ、日々を生き生きと過ごすユーザーの姿が項目を追うごとに垣間見え、デジタルカメラという商品の需要の根強さ、大きさに対する確信を深めるものとなった。

「フォトイメージングマーケット統合調査」まとめ

●デジタルカメラは「きれいに」「思うように撮れる」「レンズを換えられる」

一番よく撮影に使っている機器について、その機器で撮影する理由を聞いた。

デジタルカメラを一番よく撮影に使う方、その理由は第1位「きれいに撮れる」66.8%、第2位「自分が思うように撮れる」47.7%、第3位「ズームができる／レンズを換えられる」43.6%。

デジタルカメラの画質に対する信頼感がストレートに出たほか、「きれいに」「思うように」撮れなかった経験から、デジタルカメラを購入して撮影に再挑戦したかったという気持ちの表れと見ることができる。

スマートフォンは第1位「いつも持っている」67.4%、第2位「すばやく撮れる」62.6%、第3位「持ち運びやすい」53.9%となった。

●デジタルカメラでよく撮るのは「風景・夜景」「花・植物」「国内旅行」

デジタルカメラだけで撮る方がよく撮るのは第1位「風景・夜景」76.3%、第2位「花・植物」57.9%、第3位「国内旅行」56.6%。

スマートフォンだけで撮る方は第1位「風景・夜景」43.3%、第2位「料理」36.3%、第3位「国内旅行」32.9%。

「風景・夜景」「花・植物」「国内旅行」を「きれいに」「思うように撮りたい」、対象に応じて「レンズを換え」

ることでそれを実現したい、だからデジタルカメラを選ぶという中核をなすユーザーの姿が見えてくる。年代別では「風景・夜景」「国内旅行」が幅広い世代の支持を集めた一方、「花・植物」はシニアの支持率が高く、「70代」で跳ね上がった。

●デジタルカメラユーザーは「旅行で撮る」「撮りたいものがある」「撮ることが好き」

そもそもなぜ写真を撮るのか、いわば写真に対するモチベーションを聞いた。

デジタルカメラだけで撮る方は第1位「旅行で撮る」49.3%、第2位「撮りたいものがある」48.7%、第3位「撮ることが好き」48.0%。

スマートフォンだけで撮る方は第1位「撮りたいものがある」44.5%、第2位「日常生活の記録」44.3%、第3位「撮ることが好き」29.3%。

「撮ることが好き」は両者上位ながらポイント(%)には大きな開きがある。最もポイントの差が大きかったのは「写真は趣味」で、デジタルカメラが30%を超えた一方、スマートフォンは10%に満たなかった。旅行に出掛けたから撮る、公園に出掛けたから撮る、ではなく、撮りたいから出掛ける、出掛けることは撮ること、撮影自体が趣味という、デジタルカメラのあるアクティブなライフスタイルがそこにある。

●スマートフォン出身者の4割がその後デジタルカメラを購入

写真を撮り始めたときに使っていた機器は、「フィルムカメラ」27.5%、「スマートフォン」24.0%、「コンパクトデジタルカメラ」20.0%。その後の進展も聞いたところ、スマートフォンで入門された方の39.6%がデジタルカメラを購入されていたことが分かった。

●一番欲しいデジタル家電 第3位にレンズ交換式デジタルカメラ

一年以内に一番購入したい機器についても、デジタル家電を選択肢に網羅する形で聞いた。

第1位「スマートフォン」15.2%、第2位「パソコン」13.8%、第3位「レンズ交換式デジタルカメラ」8.0%、この下に「テレビ」7.1%が来る。スマートフォンが多数の機能を兼ね備える時代にあっても、写真撮影の機能を集中的に高めたレンズ交換式デジタルカメラの人気は際立った。

フリーアンサーでは、「周りで流行ってるし写真をきれいに残したい」(10代女性)、「好きなアイドルがカメラを趣味にしている」(同)、「持ってるだけでお洒落」(同)、「しっかりしたカメラが欲しい」(20代男性)、「旅行に行くたびに、一眼レフがあったらなあと何度思ったことか」(20代男性)、「本格的な写真が撮ってみたい」(40代女性)、「ライフワークとして」(60代男性)、「そろそろ一段上を試してみたい」(70代男性)などの声が聞かれた。

……より詳しい調査結果は、以下、補足資料:結果概要編をご参照ください。……

1. デジタルカメラで撮影する理由「きれいに」「思うように撮れる」「レンズを換えられる」

「一番よく撮影に使っている機器」が何かを聞かせていただいた上でその機器で撮影する理由を聞いた。

デジタルカメラを一番よく撮影に使う理由の第1位は「きれいに撮れる」。

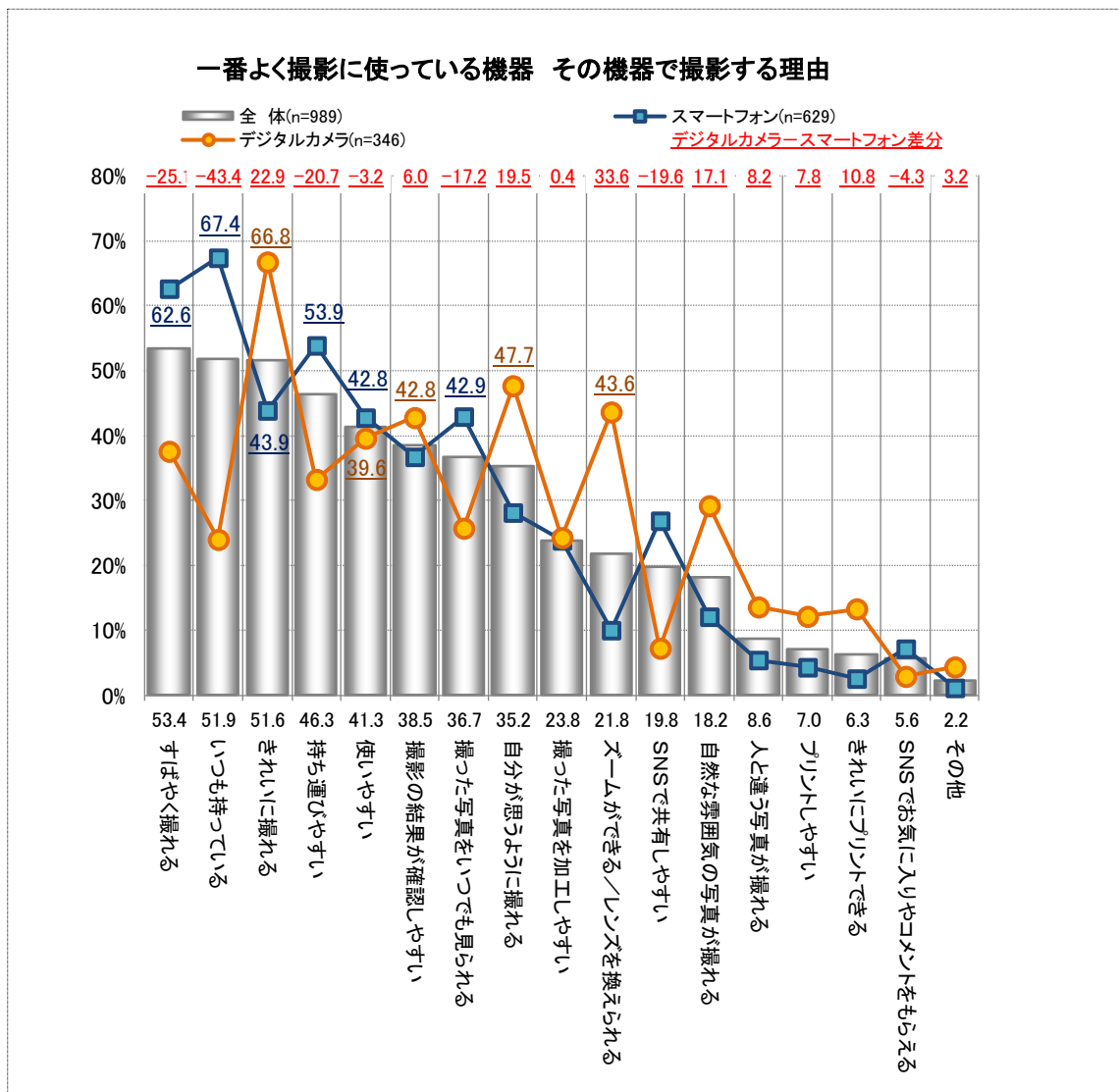
第1位「きれいに撮れる」66.8%

第2位「自分が思うように撮れる」47.7%

第3位「ズームができる／レンズを換えられる」43.6%

第4位「撮影の結果が確認しやすい」42.8%

第5位「使いやすい」39.6%



スマートフォンを一番よく撮影に使う理由の第1位は「いつも持っている」。

第1位「いつも持っている」67.4%

第2位「すばやく撮れる」62.6%

第3位「持ち運びやすい」53.9%

第4位「きれいに撮れる」43.9%

第5位「撮った写真をいつでも見られる」42.9%

いつもポケットの中にある、いつも鞆の中にあるといったスマートフォンならではの特徴が表れた一方、デジタルカメラは「きれいに撮れる」「ズームができる／レンズを換えられる」でスマートフォンを20ポイント（20%）以上引き離れた。「自分が思うように撮れる」も20ポイント近い差がある。

中でも「ズームができる／レンズを換えられる」は30ポイント以上の大差をつけており、デジタルカメラを象徴する優位点といえる。

2. デジタルカメラでよく写真を撮る対象 「風景・夜景」「花・植物」「国内旅行」「スナップ」「子ども・孫」

写真を撮ることの実態を捉えるために欠かせない項目として「よく写真を撮る対象（2～3回以上は撮ったことがあるもの）」を聞いた。

デジタルカメラだけで撮る方は「風景・夜景」が70%を大きく超えて断トツとなった。

第1位「風景・夜景」76.3%

第2位「花・植物」57.9%

第3位「国内旅行」56.6%

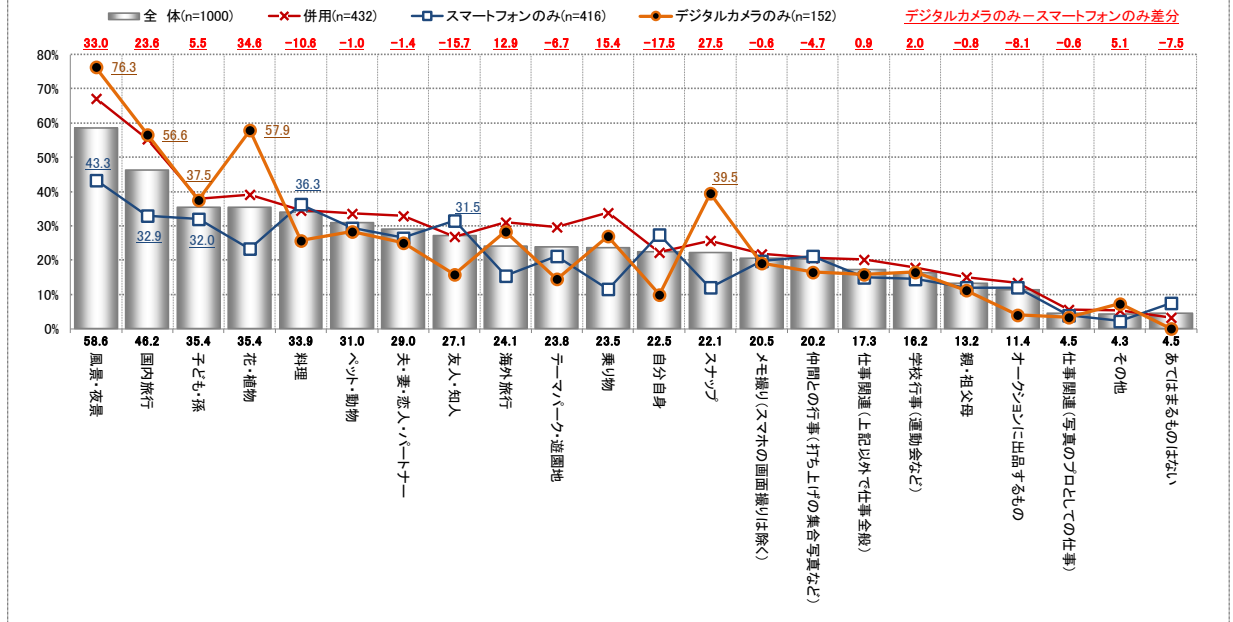
第4位「スナップ」39.5%

第5位「子ども・孫」37.5%

突出するのは「風景・夜景」であるが「花・植物」「国内旅行」も50%を優に超えており、これらがデジタルカメラによる撮影対象のスリートップとなる。

1.で取り上げたデジタルカメラを一番よく撮影に使う理由と合わせて捉えるなら、「風景・夜景」「花・食物」「国内旅行」を「きれいに」「思うように撮りたい」、対象に応じて「レンズを換え」ることでそれを実現したい、だからこそデジタルカメラを選ぶ、愛用いただけるといふ、中核をなすユーザーの姿が見えてくる。

よく写真を撮る対象 機器別



スマートフォンだけで撮る方も「風景・夜景」がトップとなった。

第1位「風景・夜景」43.3%

第2位「料理」36.3%

第3位「国内旅行」32.9%

第4位「子ども・孫」32.0%

第5位「友人・知人」31.5%

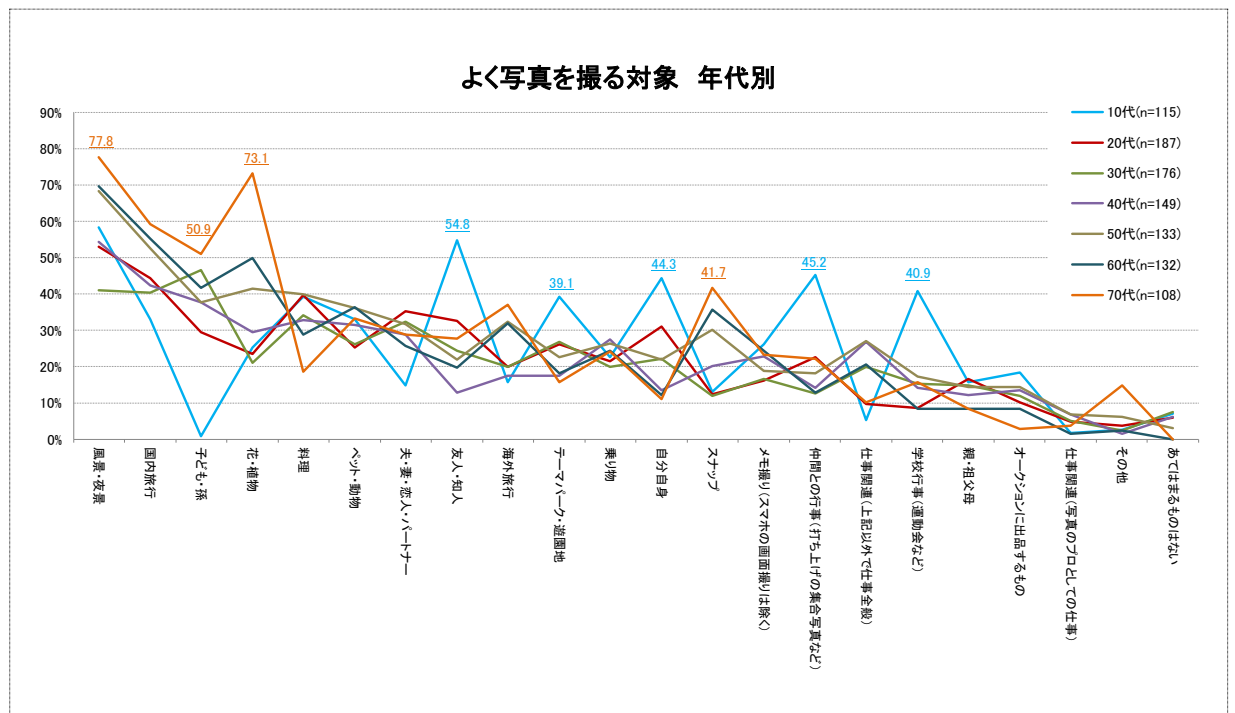
デジタルカメラがスマートフォンを20ポイント以上リードするのは「風景・夜景」「国内旅行」「花・植物」「スナップ」。この内「風景・夜景」「花・植物」は30ポイント以上の差、「スナップ」も30ポイント近く引き離れた。

その一方で、撮影対象・撮影形態としては「スナップ」と類似するはずの「メモ撮り」となるとデジタルカメラとスマートフォンは僅差に留まった。

ともに日常のシーンを切り取る「スナップ」「メモ撮り」だが、デジタルカメラユーザーは作品性に通じる言葉として「スナップ」を受け止め、デジタルカメラで撮る写真への拘りも込めた選択肢として「スナップ」が特に選ばれていった可能性がある。

逆に、スマートフォンがデジタルカメラを30ポイント以上リードした項目はなく、最も差が開いたものでも「自分自身」、いわゆるセルポで17.5ポイント上回るに留まった。

撮影者の年代別では、最も年代の高い回答者層である「70代」が「風景・夜景」「国内旅行」「子ども・孫」「花・植物」「海外旅行」「スナップ」「その他」でトップに立って計7冠を獲得、アクティブシニアが極めて強い存在層を示した。



デジタルカメラで第5位、スマートフォンで第4位の「子ども・孫」は撮影者の年代別では「70代」「30代」「60代」の順で比率が高く、相当数「孫」を含むものと見られる。

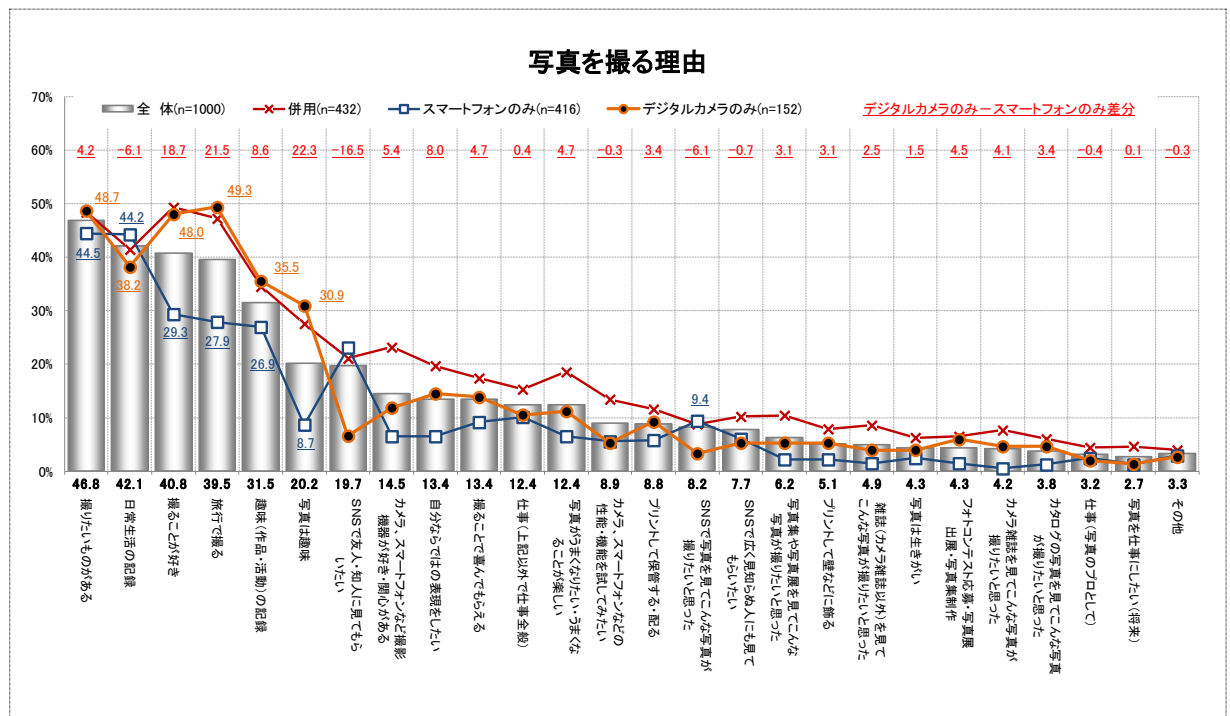
「友人・知人」「テーマパーク・遊園地」「自分自身」「仲間との行事（打ち上げの集合写真など）」「学校行事（運動会など）」「オークションに出品するもの」など「70代」と対照的な選択肢はことごとく、最も若い回答者層である「10代」がトップに立った。

3. デジタルカメラユーザーが写真を撮る理由 「旅行で撮る」「撮りたいものがある」「撮ることが好き」「日常生活の記録」「趣味の記録」「写真は趣味」

1.で取り上げた「理由」がまず「一番よく撮影に使っている機器」を挙げていただいた上でなぜその機器を選んだのかを聞く形式であったのに対して、ここでは、そもそもなぜ写真を撮るのかという選択肢を並べて、いわばモチベーションを聞いた。

デジタルカメラだけで撮る方が「写真を撮る理由」の第1位は「旅行で撮る」。

- 第1位「旅行で撮る」49.3%
- 第2位「撮りたいものがある」48.7%
- 第3位「撮ることが好き」48.0%
- 第4位「日常生活の記録」38.2%
- 第5位「趣味(作品・活動)の記録」35.5%



スマートフォンだけで撮る方が「写真を撮る理由」の第1位は「撮りたいものがある」。

- 第1位「撮りたいものがある」44.5%
- 第2位「日常生活の記録」44.2%
- 第3位「撮ることが好き」29.3%
- 第4位「旅行で撮る」27.9%
- 第5位「趣味(作品・活動)の記録」26.9%

デジタルカメラとスマートフォンとの差が20ポイント以上開くのは「旅行で撮る」「写真は趣味」。これらほど大差とはならなかったが「撮ることが好き」「趣味(作品・活動)の記録」や「自分ならではの表現をしたい」もデジタルカメラに分がある。

写真、カメラの趣味性については、当工業会も「カメラ等品目別出荷見通し」などの情報発信に際してデジタルカメラが支持される要因として触れてきたテーマであるが、「写真は趣味」「撮ることが好き」「自分ならではの表現をしたい」といったキーワードの中にこれを再確認する結果となった。

スマートフォンがデジタルカメラを大きくリードするのは「SNSで友人・知人に見てもらいたい」。

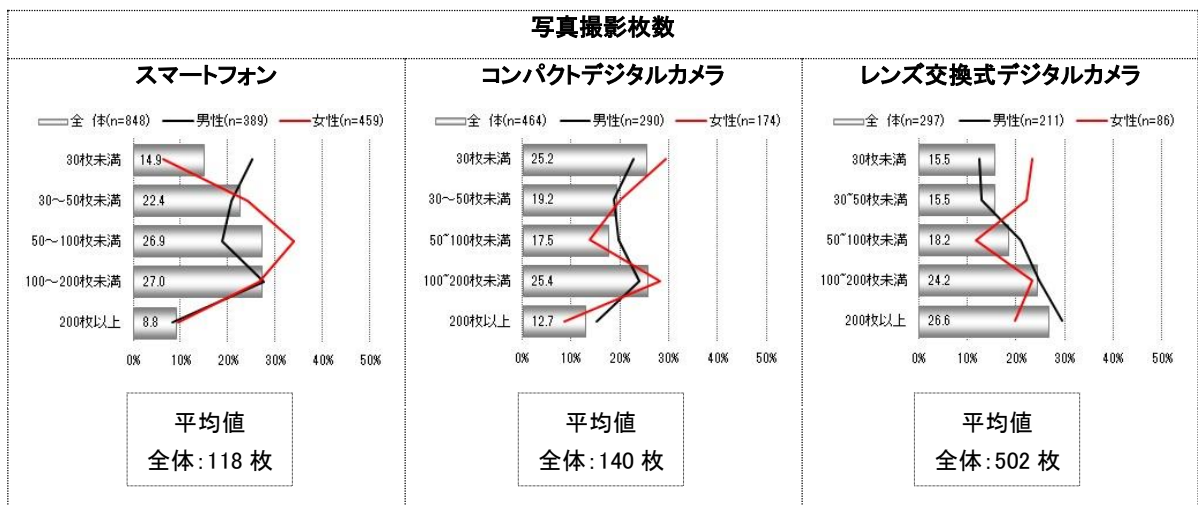
SNSに関しては、写真を見る側ではなく写真を発信する側の選択肢として、スマートフォンだけで撮る方の20%以上がこれを挙げるが、その一方で「SNSで広く見知らぬ人にも見てもらいたい」となると、10%に達しない。

まだ歴史の浅いSNSはダイナミックに変化し続けておりあくまでも現時点ではということになるが、不特定多数に受けることよりも「友人・知人に見てもらいたい」ことが中心、友人・知人とのコミュニケーションを充実したものとするための「映え」に意識があることが窺える。

4. 写真撮影枚数 レンズ交換式デジタルカメラの撮影枚数はスマートフォンの4倍以上

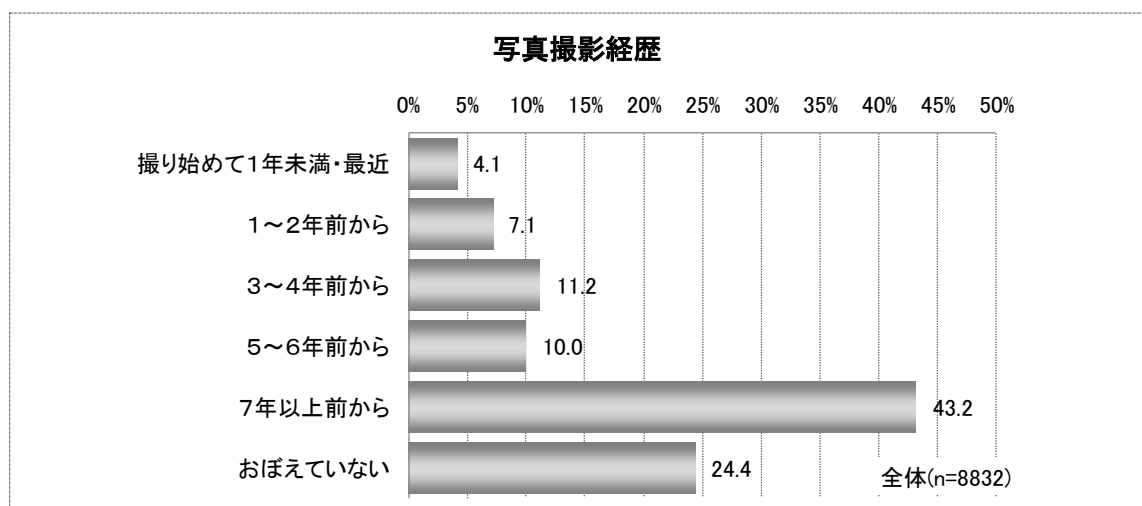
写真撮影枚数の月間平均では、スマートフォンの118枚も決して少なくないが、コンパクトデジタルカメラはこれを上回る140枚、さらにレンズ交換式デジタルカメラは502枚で突出、スマートフォンに対して4倍以上と圧倒した。

性別による傾向の違いも認められ、スマートフォンは「女性」の「50~100枚未満」が最も多く、コンパクトデジタルカメラは「女性」の「30枚未満」と「100~200枚未満」が双璧、レンズ交換式デジタルカメラは「男性」の「200枚以上」が最も多かった。



5. 写真撮影経歴 「7年以上前から」が4割、「撮り始めて1年未満・最近」は僅か4.1%

ここまで対象を「月平均30枚以上写真を撮る人」に絞り込んだ本調査の結果を挙げてきたが、本調査に先駆ける形で9,000人弱を対象とする予備調査を実施、その際には「写真撮影経歴」などを聞いている。



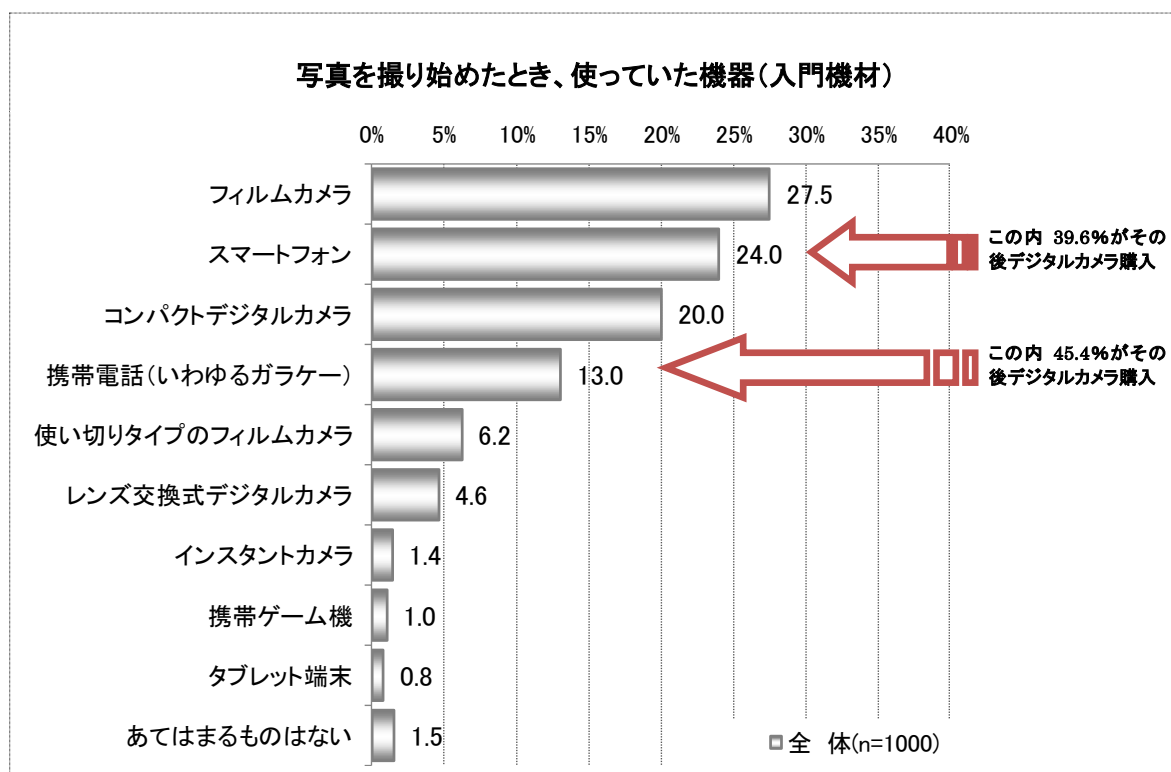
最長の選択肢とした「7年以上前から」が最も多くて43.2%、最短の選択肢とした「撮り始めて1年未満・最近」が最も少なくても僅か4.1%に過ぎなかった。

写真撮影は生活の当たり前、(たとえカメラには詳しくなかったとしても)写真撮影の経験値ならベテランの域に達する方が実は多数派であるという、当業界が向き合う市場の世界観が浮き彫りとなった。

6. 入門機材とその後 スマートフォン出身者の4割がその後デジタルカメラを購入

再び、「月平均30枚以上写真を撮る人」に絞り込んだ本調査の結果からご紹介したい。

写真を撮り始めたとき、使っていた機器(入門機材)は、フィルムカメラが27.5%、スマートフォンは24.0%、コンパクトデジタルカメラは20.0%、携帯電話(いわゆるガラケー)は13.0%だった。



さらに、スマートフォンなどで写真を撮り始めた方のその後の進展、写真を撮影する機器としてのデジタルカメラの優位性に気付いてステップアップした方がどれだけいるかを知る目的で最近の所有機器を聞いたところ、初めて写真を撮った機器がスマートフォンであった方の39.6%、携帯電話であった方の実に45.4%が、その後、デジタルカメラを購入していたことが分かった。

7. デジタルカメラが欲しい！

一年以内に一番購入したい機器についても、デジタル家電を選択肢に網羅する形で聞いた。

第1位 スマートフォン 15.2%

第2位 パソコン 13.8%

第3位 レンズ交換式デジタルカメラ 8.0%

第4位 テレビ 7.1%

第5位 タブレット端末 2.6%

スマートフォンが多数の機能を兼ねる時代にあっても、写真撮影の機能を集中的に高めたレンズ交換式デジタルカメラの人気は際立った。

以下に、レンズ交換式デジタルカメラが欲しい！と答えていただいた方々の声の一部を紹介させていただきます。

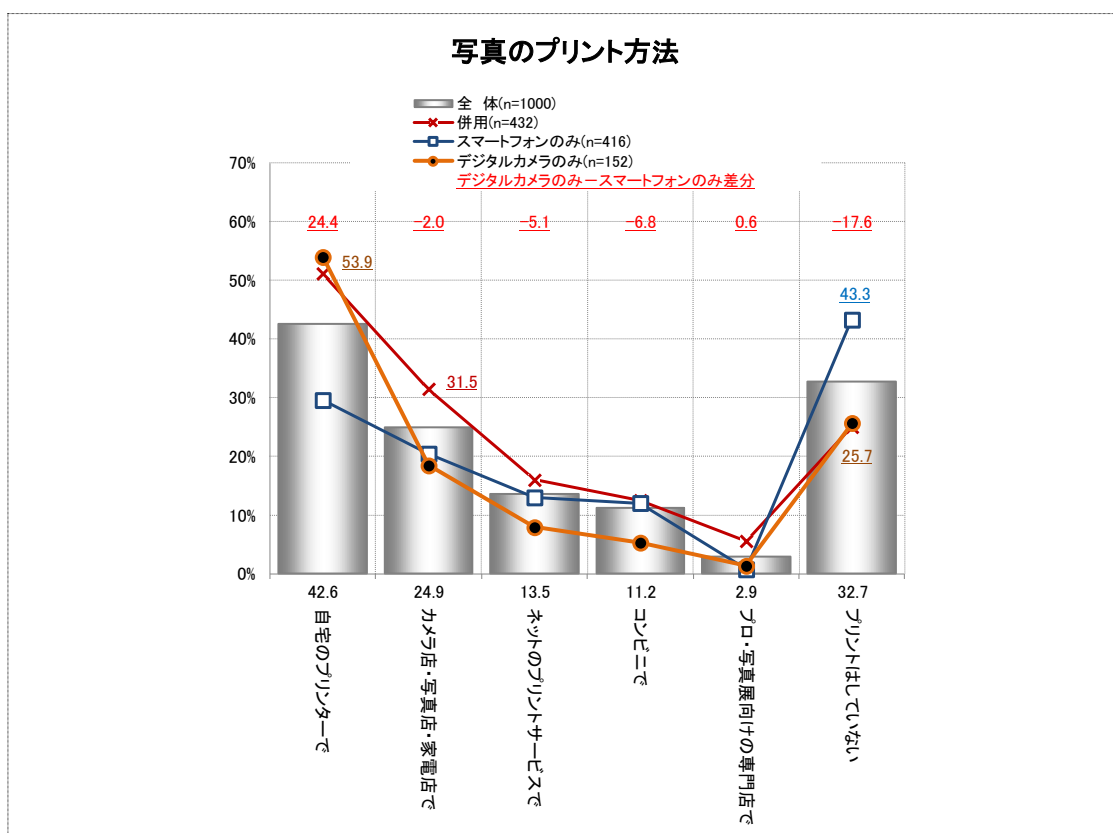
- ▶ 10代女性「周りで流行ってるし写真をきれいに残したいから」
- ▶ 10代女性「修学旅行に行った時に、暗い場所での写真が撮れなかったのと、写真を撮ることが楽しいと思い、本格的なカメラが欲しくなったから」
- ▶ 10代女性「友達で持っている人がいて自分も欲しいと思った。カッコいい好きなアイドルがカメラを趣味にしている」
- ▶ 10代女性「きれいに撮れる。持ってるだけでお洒落」
- ▶ 10代男性「きれいに撮れる、プロの写真家のように撮れるから」
- ▶ 20代女性「スマートフォンで撮るよりもオシャレできれいな写真が撮れると思うから」
- ▶ 20代女性「友人が写真を撮る事が好きでよく、インスタに写真をUPしている。その写真がすごくきれいなので、私も撮りたいと思ったから。また、よく旅をするので！素敵な景色をよりきれいに撮りたいと思ったから」
- ▶ 20代男性「しっかりしたカメラが欲しいと思うから」
- ▶ 20代男性「よりきれいな写真を撮影したい。旅行に行くたびに、一眼レフがあったらなあと何度思ったことか」
- ▶ 30代女性「すごくきれいな写真が撮れるし、よく行くディズニーには一眼を持ち歩く女子が多く、興味を持ったため」
- ▶ 40代女性「本格的な写真が撮ってみたい」
- ▶ 50代女性「カメラ、写真が好きになってきたので興味を持っています。旅行時のお供にと考えてます」
- ▶ 60代女性「一番きれいにうつるから」
- ▶ 60代男性「ライフワークとして」

- ▶ 70代男性「デジカメ使用歴は10年以上あります。そろそろ一段上を試してみたい」
- ▶ 70代男性「旅行などで、きれいな写真が撮れる(大きく伸ばせる)」

8. デジタルカメラユーザーの過半数は「自宅のプリンターで」プリントしている

写真のプリントをどのような方法で行っているか、最近(ここ1年ぐらいの間に)プリントした方法として聞いた。

デジタルカメラのみで撮る方の中で「自宅のプリンターで」プリントする割合は過半数、53.9%に達した。



プリント方法は、全体でも、デジタルカメラだけで撮る方も、スマートフォンだけで撮る方も、「自宅のプリンターで」「カメラ店・写真店・家電店で」「ネットのプリントサービスで」「コンビニで」「プロ・写真展向けの専門店」の順となった。

以上、調査結果より抜粋

「フォトイメージングマーケット統合調査」実施概要

1. 調査手法

Web 調査

2. 調査実施時期

2018 年 2 月

3. 調査対象者

日本国内、女性・男性、15 歳～79 歳。

予備調査において、日本人の性・年齢構成に沿った回収割り当てを行った。

本調査は、月平均 30 枚以上写真を撮る人(日常的に写真を撮る人)を対象に行った。

デジタルカメラユーザーに絞るのではなくスマートフォンだけで写真を撮る人も対象とした。

4. サンプル数

1,000 名(本調査)、8,832 名(予備調査)

● 本件問い合わせ先

一般社団法人カメラ映像機器工業会 CIPA

E-mail: infostat@cipa.jp